

天下の魁・水戸にふさわしい風格ある歴史まちづくり

1. はじめに

水戸市は、関東平野の北東端に位置し、東京から約100kmの距離にある人口約27万人の中核市です。

古くから水陸の要衝の地として栄え、徳川御三家の一つである水戸徳川家の城下町として繁栄しました。明治時代以降は県庁が置かれ、以来、県都として、行政、文化等の都市機能を集積しながら大きく発展してきました。

水戸というと、「水戸黄門」で有名な水戸藩第二代藩主の徳川光圀公と、現在NHK大河ドラマ「青天を衝け」で竹中直人さんが演じている水戸藩第九代藩主の徳川斉昭公が著名です。光圀公の最大の業績は、歴史書『大日本史』の編さん事業を始めたことにあります。編さん作業は光圀公の死後も続けられ、約250年に及ぶ水戸藩最大の事業となりました。編さん事業を通じて水戸藩の学問・教育は大きく発展し、江戸時代の教育力の向上に大きな影響を及ぼすこととなります。時代が下り、内憂外患の世に藩主となった斉昭公は、国内最大規模を誇った藩校弘道館の創設や、日本三名園の一つに数えられる偕楽園の開園などをはじめ、藩政の大改革を行いました。「尊王攘夷」という言葉は、斉昭公の治世に水戸藩から生まれた思想です。尊王攘夷思想は多くの幕末の志士が信望し、やがて来る明治維新に大きな影響を及ぼしました。

本市は梅と所縁が深く、光圀公は、自らを「梅里」と号し、斉昭公は偕楽園や弘道館に多くの梅を植樹するなど、梅は歴代の水戸藩主に好まれ、

現在も市の木として定めております。1897（明治30）年からは、「水戸の梅まつり」が開催され、現在でも多くの市民や観光客を魅了しています。斉昭公は漢詩「弘道館に梅花を賞す」に「雪裡春を占む天下の魁」と詠み、厳しい寒中に雪を冒して独り咲き出でて、春の魁をなす梅花を、自らの政治改革の姿勢となぞらえました。本市も、県都、そして、水戸都市圏のリーダーとして、歴史に裏打ちされた風格を保ちながら、あらゆる分野における先進的な発展をリードする都市を目指しております。

2. 水戸城跡周辺地区の歴史まちづくり

1) 整備前の水戸城

水戸城は国内最大規模を誇る土造りの平山城として知られています。旧城内には日本遺産第1号に認定された弘道館をはじめとする歴史的資源が点在し、日本100名城（(公財)日本城郭協会）にも選定されています。

一方、戦災等によって多くの建造物を失ったこと、水戸城周辺の多くが学校や官公庁の敷地となっているため、往時の風情を偲び、回遊性を高める核となる歴史的資源が少ないなどの課題があり、水戸城の持つ高い歴史性をまちづくりに生かすきれていない状況が続いていました。

2) 大手門等の復元に向けて

こうした状況に転機が訪れたのが、市制施行120年にあたる平成21年に、茨城県坂東市の古刹・万蔵院で、水戸城大手門のものと伝わる江戸時代の扉が発見されたことです。この発見を受け、水戸城のお膝元である三の丸地区住民の方々が復



水戸市長 **たか はし**
高 橋 やすし
靖

元に向けて立ち上がり、「水戸城大手門復元の会」を設立、市民の皆様による募金活動が開始されました。

また、本市においても大手門等の発掘調査や古絵図・古写真調査などの学術的検討を行い、水戸城歴史的建造物について、史実に基づく高いレベルで復元整備を行うことが可能と結論付けられました。

このような市民の皆様のお熱い思いや、学術調査の結果を受け、平成26年、本市は「水戸市第6次総合計画－みと魁プラン－」の重点プロジェクトに大手門等の水戸城歴史的建造物の復元整備事業を位置づけ、整備事業をスタートしました。

3) 歴史まちづくりと復元整備

本市は、平成26年に「弘道館・水戸城跡周辺地区の歴史まちづくり基本構想」を策定し、大手門等の復元整備とあわせて、次のような城郭の雰囲気漂う景観整備を行いました。

- ア) 通りの塀を白壁で統一
- イ) 電線等の地中化
- ウ) 土色系舗装の整備
- エ) 休憩所の整備

これらを整備することにより、地区内に点在してしまう現存する建造物や復元建造物が線でつながり、市民や観光客にとって、来て・見て・楽しめる歴史まちづくりが実現しました。

大手門等の復元整備については、ユネスコ無形文化遺産「伝統建築工匠の技」の保存団体である（公財）文化財建造物保存技術協会の設計・監理のもと、木組みの伝統工法で施工しました。使用した木材は、設計断面が大きいのが特徴です。県産材又は国産材で、節が少なく赤身といわれる芯の部分を使用するという制限を設けたため、材料

調達には約1年を要しました。これらの木材を可能な限り当時の技術、当時の工法を用いて加工し、組み上げ、着工から2年半の歳月をかけて令和元年9月に完成しました。

坂東市の古刹万蔵院で大手門のものと伝わる扉が確認されてからちょうど10年の年月を経て、弘道館の正面に荘厳な水戸城大手門が甦りました。



写真－1 水戸城大手門

3. おわりに

令和3年8月には、（一社）全日本建設技術協会の建設技術講習会が水戸市で開催される予定です。

同講習会の現場研修でご覧いただく弘道館・水戸城跡周辺地区は、観光交流人口の増加はもとより、郷土愛の醸成を図る、魅力発信・交流拠点となっております。

ぜひ、本市が進めてきた歴史を感じられる空間の形成と、水戸の顔にふさわしい歴史まちづくりをご覧ください。皆様のお越しを心よりお待ちしております。